資料４

高温耐性を有し、多収で食味が良い水稲新品種「ゆきまんてん」

令和８年２月 10 日
県産米戦略推進課

１　品種の特性等

（１）育成機関

農業総合研究センター水田農業研究所

（２）育成経過

平成 24 年に「山形 112 号，雪若丸」を母、「山形 122 号」を父として交配し、令和元年から奨励品種決定調査、令和５年から現地実証圃を設置している。

（３）品種の特性

・出穂期、成熟期は「はえぬき」並の“中生の晩”である。
・稈長は「はえぬき」より５ｃｍ程度長い“中稈”で、耐倒伏性は“中”である。
・穂長はやや長く、穂数は並で、草型は“中間型”である。
・収量性は、千粒重が「はえぬき」より２ｇ 程度重く、「はえぬき」より多収である。
・玄米の外観品質は、「はえぬき」を上回る高品質である。
・食味は炊飯米の光沢・外観・白さ・味が優れ、「はえぬき」並～優る良食味である。

２　今後の進め方

（１）令和９年度の一般作付（デビュー）に向け、令和８年は、令和７年に引き続き現地実証圃を設置して、栽培指針作成（令和８年度）に向けた試験研究を進めるとともに、流通販売関係者や輸出関係者に求評を行う。生産・流通販売方針は、ＪＡグループ等関係機関と連携して慎重に検討を進めていく。

（２）令和８年度は令和９年度の一般作付に向けた種子生産を開始する。また、令和 10 年度以降の作付計画に合わせ、一般種子を計画的に生産していく。



写真１　「ゆきまんてん」の稲姿



写真２ 稲株の比較
(左:ゆきまんてん 中央:はえぬき 右:出羽きらり)



写真３ 玄米の比較
(左:ゆきまんてん 中央:はえぬき 右:出羽きらり)

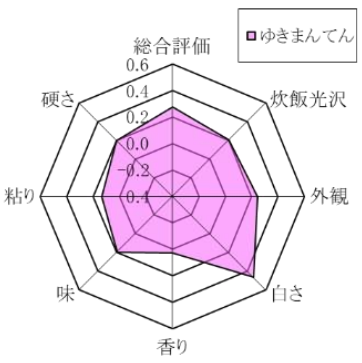


図１ 食味特性
育成地生産力検定試験 平成 28～令和７年
基準（0.0）育成地産「はえぬき」

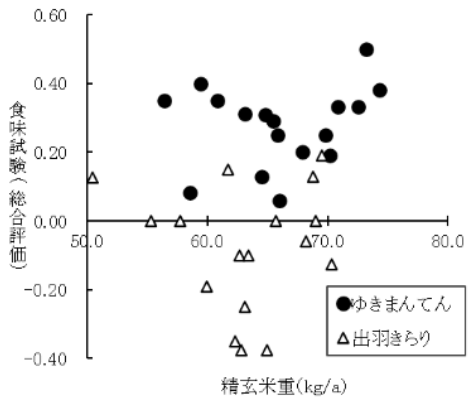


図２ 精玄米重と食味の関係
所内試験及び奨決試験 平成 28～令和７年
基準（0.0）育成地産「はえぬき」